

第 2 2 回山陽小野田市都市計画審議会議事録（要約版）

○開催日時	令和 5 年 1 1 月 1 3 日(月) 1 0 時～ 1 1 時
○開催場所	山陽小野田市役所 3 階 大会議室
○出席者	1 号委員 望月正隆、藤田敏彦、豊田弘光、村上景二、森田祐三 2 号委員 岡山明、奥良秀、恒松恵子、中岡英二、森山喜久 3 号委員 重富寿、高無正
○欠席者	1 号委員 小林剛士 2 号委員 塩田賢二、西村勲
○傍聴者	報道関係者 1 名
○事務局	古川副市長 大谷建設部長 高橋建設部次長 下 水 道 課：泉本課長、藤本課長補佐、河内主任技師 都市計画課：立野課長補佐、佐久間係長、大田技師
○会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 ・議案第 1 号 山陽小野田都市計画下水道について（諮問） 4 その他 5 閉会
○会議内容	
1 開会	
2 副市長あいさつ	
3 議事 ○議案第 1 号 山陽小野田都市計画下水道の変更について（諮問） 事務局から一括説明	
(委 員)	ポンプ場の水替え作業は市の職員が行う予定なのか。
(事務局)	民間に業務委託する予定です。
(委 員)	ポンプ場の稼働時間は決めているのか。大雨が降りだしてから貯水池の水を抜き出しても間に合わない。せっかくポンプ場を設置しても、ポンプ場稼働のタイミングを間違えると意味がない。
(事務局)	作業マニュアルを作成して、遅れの無いように対応する予定です。
(委 員)	これは憶測だが、今年 7 月の厚狭の氾濫もポンプを回すタイミングが遅かったのではないかと思う。指示等は明確にしなければ人災がおきるのではないか。
(事務局)	大正川のポンプ場に関しては、24 時間体制の民間業者に委託していま

す。契約時に、作業規程により水位や天気によってポンプをまわすタイミングを示しており、真摯に対応して頂いています。訓練等も行い、作業員の教育も行っていると聞いています。上木屋、横土手排水機場に関しても同じように24時間体制で対応していく予定です。

- (委員) 現況施設の問題点と整備方針について、沖中川の流下能力不足とあるが、沖中川自体の土砂の堆積等、日ごろの管理はどのような状況か。
- (事務局) 現在、沖中川は普通河川と位置付けられており、管理は高千帆土地改良区となっています。市のほうで直接管理はしていませんが、適切に管理していただいていると認識しております。
- (委員) 排水機場をつくっても、河川に土砂が溜まって溢れてしまう。河川の管理も徹底して行ってもらうことが重要だと思う。
- (事務局) 沖中川自体が都市下水路という位置づけになるので、まだ高千帆土地改良区と協定等は結んでいませんが、管理は市になると思います。
- (委員) 10年確率降雨の1時間当たり56mmとあるが、先日の美祢の集中豪雨では1時間雨量約80mmを記録していた。この数字で本当によいのか、判断基準を教えてください。
- (事務局) 山口県内全域で10年確率降雨を使うことが決められていることから、1時間あたり56mmという雨量を算出しています。しかし、近年これ以上の雨が降ることが多発しているのが現状です。まずは、ハード整備として10年確率降雨を基に整備していき、それ以上の雨が降った場合は、ハザードマップ等を利用して頂き避難して頂きたいと考えています。
- (委員) 排水機場を新たに設置しても、集中豪雨が来た場合は防げない。安全率等をかけてより安全にすることはしないのか。
- (事務局) 段階的な整備として、現況を踏まえた検討をしたうえで、10年確率降雨で整備することとしています。状況が変わったらまた、対応を変えていけたらと考えています。
- (委員) 後々、確率降雨を変更して改修するよりは、最初にお金を使ったほうが経済的だと思う。
- また、この地域一体は市内でも溢水の起点となる場所であるため、しっかりと考えていただきたい。
- (事務局) 昨年度までは、1時間雨量55mmでしたが、近年の大雨等の状況に沿って改訂され1時間雨量56mmとなっています。ハード整備には限界があるため、10年確率降雨で整備したいと考えています。それ以上の雨に関しては、ハザードマップ等活用していただいて、逃げ遅れゼロを目指すという国の方針に沿い、市としてもソフトとハードの連携で対応したいと考えています。
- (委員) 新しく作られる排水機場の面積が既存のポンプ場の2倍となっているのは、どのような理由なのか。
- (事務局) 上木屋ポンプ場は導水渠で引っ張ってくる水の距離が長くなっており、水

	を引っ張りきれず、ポンプ場が空回りしてはいけないので、遊水池をつくって十分に貯水できるようにしています。そのため、面積が他の排水機場よりも大きくなっています。
(委員)	県によって、10年確率降雨を用いることとなっていると言っていたが、他市はどういう対応をしているのか。
(事務局)	県内の市町村は、10年確率降雨で整備しています。
(委員)	山口県内においては、10年確率降雨を超えて整備している自治体は無いという認識でよいか。
(事務局)	山口県の確率降雨は、西部・中部・東部に分かれており、県内すべて下水道で整備する施設は、10年確率降雨でハード整備しております。
(委員)	2つの排水機場の排水能力はどのくらいあるのか。 また、今回は沖中川の流下能力不足のためにポンプ場の新設となるが、河川の改修はどのようなイメージをしているのか。
(事務局)	上木屋に関しては、短期・中期整備の時点では、1秒あたり6tのポンプ場を設置し、最終的には、1秒あたり9.7tの排水能力をもったポンプを設置する予定です。横土手については、1秒あたり14.1tの排水能力のポンプを設置する予定です。また、沖中川の改修については、用地買収をしての河川の拡幅は難しいため、ライニング等で改修していきたいと考えています。
	・採決の結果、全会一致で議案第1号は原案どおり承認された。
	・1議案について、答申書の受け渡しが行われた。
4	その他
5	閉会